

本年度退職者

花田 達朗 教授 略歴・業績

略 歴

- 1947年 長崎県生まれ
- 1971年 早稲田大学政治経済学部政治学科卒業
- 1971年 (社)日本新聞協会勤務
- 1976年 ミュンヘン大学哲学部社会科学系入学
- 1978年 Arbeitsgemeinschaft für Kommunikationsforschung e.V. (AfK) 研究員
- 1980年 ミュンヘン大学 Magister Artium (M.A.) (修士号) 取得
- 1980年 ミュンヘン大学コミュニケーション学 (新聞学) 研究所博士課程進学
- 1986年 同博士課程退学
- 1986年 (財)電気通信総合研究所 (1987年電気通信政策総合研究所と改称) 研究員
- 1987年 同研究所主任研究員
- 1989年 創価大学文学部社会学科助教授
- 1992年 東京大学新聞研究所 (1992年4月10日, 社会情報研究所と改称) 助教授
- 1995年 東京大学社会情報研究所教授
- 2003年 東京大学社会情報研究所長, 東京大学評議員
- 2004年 東京大学大学院情報学環教授, 情報学環長, 学際情報学府長, 東京大学評議員
- 2006年 早稲田大学教育・総合科学学術院教授
- 2008年 東京大学名誉教授

主要業績

〈著書〉

- (共) *Schlußbericht - Bisherige Praxis der Medienförderung*. Hrsg. von Arbeitsgemeinschaft für Kommunikationsforschung e.V., München: AfK, 1978.
- (共) *Kommerzielles Fernsehen in der Medienkonkurrenz; Japan - Fernsehualismus und Medienkonzentration*. Berlin: Wissenschaftsverlag Volker Spiess, 1984.
- (共) 『テレコム』(シリーズ・世界の企業) (1987年7月, 日本経済新聞社)
- (共) 『コミュニケーション論』(1988年5月, 有斐閣)
- (単) 『電気通信と放送との融合——政策ペーパーを素材として』(1989年3月, 電気通信政策総合研究所)
- (共) *Communications Policy in Europe*. Elixmann, D. & Neumann, K.-H. (eds.), Berlin/Heidelberg:

Springer Verlag, 1990.

- (共) 『メディアの現在形』(1993年5月, 新曜社)
- (共) 『システムと生活世界』(岩波講座『社会科学の方法』第8巻)(1993年9月, 岩波書店)
- (共) 『放送制度論のパラダイム』(1994年3月, 東京大学出版会)
- (共) 『社会情報と情報環境』(1994年3月, 東京大学出版会)
- (単) 『公共圏という名の社会空間——公共圏, メディア, 市民社会』(1996年2月, 木鐸社)
- (共) 『メディアと情報化の社会学』(岩波講座『現代社会学』第22巻)(1996年4月, 岩波書店)
- (共) 『情報と法』(岩波講座『現代の法』第10巻)(1997年1月, 岩波書店)
- (共) 『法と情報』(石村善治先生古稀記念論集)(1997年8月, 信山社)
- (共) 『都市と言語』(叢書『歴史と方法』第2巻)(1998年1月, 青木書店)
- (共) 『日本思想の地平と水脈』(河原宏教授古稀記念論文集)(1998年3月, ペリカン社)
- (共) 『デザイン・テクノロジー・市場』(叢書『情報社会の文化』第3巻)(1998年6月, 東京大学出版会)
- (共) 『国際化時代の教育』(岩波講座『現代の教育・危機と改革』第11巻)(1998年6月, 岩波書店)
- (共) 『カルチュラル・スタディーズとの対話』(1999年5月, 新曜社)
- (共) 『社会情報学 II メディア』(1999年10月, 東京大学出版会)
- (単) 『メディアと公共圏のポリティクス』(1999年11月, 東京大学出版会)
- (共) *Models of Integration in Asia and Europe: Generating Public Space for Our Common Futures.* Wolfgang Pape (ed.), Luxembourg: European Commission, 2001.
- (共) “Arbeit”: *Geschichte–Gegenwart–Zukunft* (ITH-Tagungsberichte; Bd.36), Josef Ehmer, Helga Grebing und Peter Gutschner (Hrsg.), Leipzig: Akademische Verlagsanstalt, 2002.
- (共) 『論争 いま, ジャーナリスト教育』(2003年3月, 東京大学出版会)
- (共) *Toward a Political Economy of Culture – Capitalism and Communication in the Twenty-First Century.* Andrew Calabrese and Colin Sparks (eds.), Lanham: Rowman & Littlefield Publishers, 2004.
- (共) 『社会情報学ハンドブック』(2004年3月, 東京大学出版会)
- (共) 『日本のジャーナリズムとは何か——情報革命下で漂流する第四の権力』(2004年3月, ミネルヴァ書房)
- (共) *Media Industry, Journalism Culture and Communication Policies in Europe,* Hans Bohrmann, Elisabeth Klaus, Marcel Machill (eds.), Köln: Herbert von Halem Verlag, 2007.
- (共) 『「個」としてのジャーナリスト』(2008年11月, 早稲田大学出版部)
- (共) 『「可視化」のジャーナリスト』(2009年11月, 早稲田大学出版部)
- (共) 『「境界」に立つジャーナリスト』(2010年11月, 早稲田大学出版部)
- (共) 『「対話」のジャーナリスト』(2011年11月, 早稲田大学出版部)

- (共)『新聞は大震災を正しく伝えたか——学生たちの紙面分析』(2012年5月, 早稲田大学出版部)
- (共)『放送番組で読み解く社会的記憶——ジャーナリズム・リテラシー教育への活用』(2012年6月, 日外アソシエーツ)
- (共)『日本の現場——地方紙で読む2012』(2012年10月, 旬報社)
- (共)『エンサイクロペディア現代ジャーナリズム』(2013年4月, 早稲田大学出版部)
- (共)『レクチャー現代ジャーナリズム』(2013年5月, 早稲田大学出版部)
- (共)『内部的メディアの自由——研究者・石川明の遺産とその継承』(2013年8月, 日本評論社)
- (共)『いいがかり——原発「吉田調書」記事取り消し事件と朝日新聞の迷走』(2015年3月, 七つ森書館)
- (共)『震災後に考える——東日本大震災と向きあう92の分析と提言』(2015年3月, 早稲田大学出版部)
- (共)『日本の現場——地方紙で読む2016』(2016年10月, 早稲田大学出版部)
- (共)『調査報道ジャーナリズムの挑戦——市民社会と国際支援戦略』(2016年12月, 旬報社)
- (共)『地方紙の眼力——改憲・安全保障・震災復興・原発・TPP・地方創生』(2017年5月, 農村漁村文化協会)
- (共)『始動! 調査報道ジャーナリズム——「会社」メディアよ, さようなら』(2017年5月, 彩流社)
- (共)『市民とつくる調査報道ジャーナリズム——「広島東洋カープ」をめざすニュース組織』(2017年7月, 彩流社)
- (共)『探査ジャーナリズムとNGOとの協働』(2017年10月, 彩流社)

〈論考 (すべて単)〉

- 「セカンドメディアとしての責任と未来——大学のジャーナリズム教育と放送ライブラリーの活用」(2010年12月『月刊民放』通巻474号, 日本民間放送連盟)
- 「ジャーナリズムを経済的にどう支えるか——2011年度税制改正大綱への疑問とともに」(2011年3月『アジェンダ——未来への課題』第32号, 星雲社)
- 「ジャーナリズムと市民社会の再接続——『イズム』はいつも居場所を求めて旅に出る」(2017年9月『世界』第899号, 岩波書店)

〈時評 (すべて単)〉

- 「新聞・論評は『外注』より自前で」(2001年5月26日『朝日新聞』朝刊)
- 「編集権 「報道の自由」の徹底こそ」(2005年3月8日『朝日新聞』朝刊)
- 「取材源の秘匿と証言拒否をめぐる 上 『逸脱判決』の背後にプレスへの厳しい目」「取材源の秘匿と証言拒否をめぐる 下 プロフェッションとして職業倫理確立を」(2006年4月10日・11日『東京新聞』夕刊)

「戦争の記憶 公共化を 抑圧への抵抗 報道に期待」(2008年8月5日『沖縄タイムス』朝刊)
「虚偽と煽動の『芸術』 戦後70年の権威主義政権」(2015年7月4日『琉球新報』朝刊)

〈海外ジャーナル編集委員〉

International Advisory Board, “*new media & society*”, Sage Publications, April 1999–August 2007

Editorial Board, “*Journalism Studies*”, Routledge/ Taylor & Francis, since February 2000 until present

Editorial Board, “*javnost/the public: Journal of the European Institute for Communication and Culture*”,
University of Ljubljana, since April 2007 until present

〈受賞〉

1987年 電気通信普及財団社会科学賞を共同受賞

2017年 FCCJ Freedom of Press Award, Supporter of the Free Press (日本外国特派員協会「FCCJ
報道の自由推進賞」受賞)